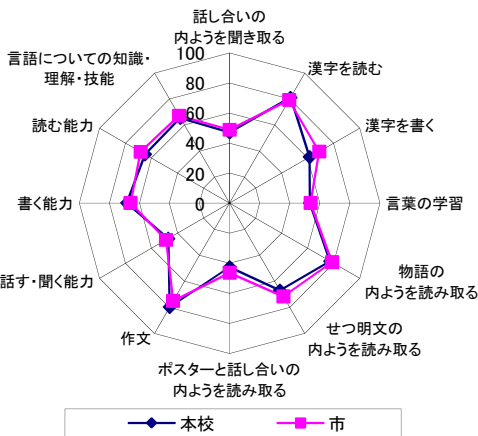


宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	47.1	48.8
	漢字を読む	81.1	79.3
	漢字を書く	61.4	68.8
	言葉の学習	53.5	53.8
	物語の内ようを読み取る	77.2	78.7
	せつ明文の内ようを読み取る	67.1	71.6
	ポスターと話し合いの内ようを読み取る	42.5	46.3
	作文	79.8	75.1
観点別	話す・聞く能力	47.1	48.8
	書く能力	68.4	65.9
	読む能力	65.0	68.4
	言語についての知識・理解・技能	65.6	67.2



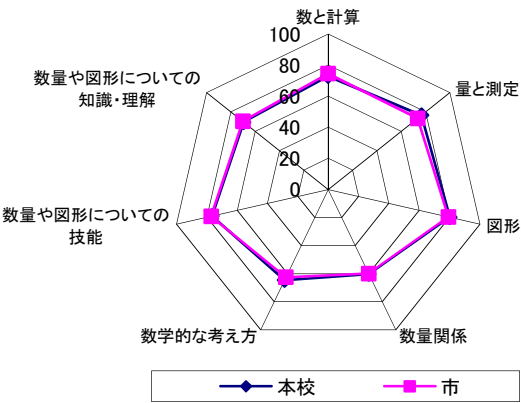
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・平均正答率は市の平均正答率をやや下回った。「互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとすること」に課題が見られる。	・話し合い活動を授業に取り入れ、聞き方のポイントを確認し、互いの考えの相違点や共通点を意識した話し合いの場を設けるようにしたい。
漢字	・「漢字を読む」の平均正答率は市の平均正答率をやや上回った。それに対し「漢字を書く」の平均正答率は市の平均正答率を下回った。	・漢字練習帳やプリントを使った新出漢字の練習や、小テスト等で繰り返し漢字の復習を行い、定着を図りたい。
言葉の学習	・平均正答率は市の平均正答率とほぼ同じ。「漢字辞典の使い方を理解している。」は市の平均正答率を上回った。それに対し「文の構成(連体修飾語)」について理解している。」は市の平均正答率を下回った。	・言葉の学習の単元だけでなく、折に触れて文章の構成について確認し、連体修飾語や連用修飾語などの理解の定着を図りたい。
物語の内ようを読み取る	・平均正答率は市の平均正答率をやや下回った。「場面の様子と登場人物の気持ちの変化を読み取ること」に課題が見られる。	・登場人物の気持ちの変化を読み取るため、様子や気持ちを表す音読の仕方を身に付けさせたい。また、気持ちの変化を読み取るための、キーワードの確認を丁寧にしていきたい。
せつ明文の内ようを読み取る	・平均正答率は市の平均正答率を下回った。「目的や必要に応じて、文章の内容を読み取ること」は市の平均正答率をやや上回った。それに対し「細かい点に注意して文章を読み取ること」に課題が見られる。	・繰り返し出てくる言葉や接続詞などに着目して、段落ごとの要約の活動を積極的に取り入れ、説明文の読み取りの力を伸ばしたい。
ポスターと話し合いの内ようを読み取る	・平均正答率は市の平均正答率をやや下回った。「資料を読み取って、適切な言葉を使って文を書き直すこと」に課題が見られる。	・資料の読み取りに比べ、資料の内容を書き直すことに課題が見られるため、文を書くために必要となる適切な言葉を自分で選ぶ活動と、資料を書き直す活動を取り入れ、力を伸ばしたい。
作文	・全体的に市の平均正答率を上回った。指定された長さで文章を書くことが特によくできている。	・引き続き、課題に沿った作文指導を繰り返し、さらなる定着を図りたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	72.9	74.5
	量と測定	76.6	73.5
	図形	80.1	79.2
	数量関係	60.2	59.9
観点別	数学的な考え方	64.6	62.5
	数量や図形についての技能	76.7	77.1
	数量や図形についての知識・理解	69.4	70.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・正答率72.9%と領域の内容をおおむね理解しているが、3年時に学習した数直線上の分数の読み取りや同じく3年時に学習した3けた×2けたの計算の正答率が低かった。	・個人差が大きかった3けた×2けたのかけ算や3けた÷2けたのわり算など計算問題などについては、継続的に計算練習を行い定着を図りたい。
量と測定	・正答率76.6%と市の正答率を上回り、領域の内容をおおむね理解している。長方形の面積を求める問題では、正答率が95.8%複合図形の面積の求め方についても86%とよくできていたが、角の大きさや身近にあるものの面積を類推する問題の正答率が低かった。	・角の大きさや身近にあるものの面積を類推する問題については、実際に角や長さを図る活動を通して、数の感覚を養っていききたい。
図形	・正答率80.1%と市の正答率を上回り、領域の内容をおおむね理解している。円や二等辺三角形の作図はよくできていた。球の半径から球が入る箱の辺の長さを求める問題の正答率は、低かった。	・球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求めるような問題については、授業の中で具体物を操作する活動を多く取り入れ、体験的に理解できるようにしていきたい。
数量関係	・正答率は、60.2%と他の問題に比べると正答率が低かった。二次元表の読み方を理解している割合は高いが、二次元表を利用して問題を解く問題は低い数値である。 ・計算のきまりでは、分配法則の問題の正答率が低かった。	・二次元表については、資料を整理したりグラフを読み取ったりする活動を取り入れ、実際に活用できるような指導を行う。 ・計算のきまりについては、計算のきまりを用いることで計算が速く、簡単に、正確にできるよさを理解できるように多くの問題に触れられるようにしたい。